

情報システムの最適化を目指して

令和元年 6月25日

三条市総務部 情報管理課 山澤 浩幸

1 三条市の住民情報系システムの整備経緯

元年

H12~

H16

水害
震災

H17~

市町村合併

H21~

情報システム
最適化研究会 発足

H27~

ホストシステム
住基・税・医療 等
「職員開発・運用 | ベンダー支援」

クラサバシステム
住基・税・医療 等
「Hベンダー運用委託」

新潟県5自治体
共同クラウドシステム
「Rベンダー運用委託」

◎ 連携データ抽出
(仕様オープン化) や
次期データ移行経費含む
(中間標準レイアウト等)

クラサバシステム
介護・健康福祉・コンビニ証明 等
「Fベンダー運用委託」

クラサバシステム 等
ベンダー連携・小業務「職員開発・運用」

クラサバシステム 等
小業務「職員開発・運用」

レガシー時代から新規連携システムの導入では、
連携仕様をオープン化(競争原理)したが、
規模によるコスト削減の限界

当初からシステムの標準化・統一のために
地プラや中間標準レイアウトを推奨
運用実績はないが...

2-1 地プラ対応について

自治体側の財政難や職員削減から

業務最適化の要求

システム連携の煩雑化解消の要求

操作性統一、運用効率化の要求

ベンダー側の状況

平成大合併によるシステム淘汰

機能の差異が縮小

開発・保守運用の効率化

システムの状況

システム標準化、1パッケージ化

共同クラウド化

地プラ

パッケージ内連携 ≠ 地プラ
地プラのニーズの低下

しかし

マルチベンダー(1パッケージにならない
例外業務含む) や
新業務調達等で地プラは有効

**連携項目不足の地プラ業務仕様は
実態にあった精査が必要**

**バッチ連携で対応可能なケースが多い。
システム調達要件に、新たなデータ抽出(連携)が
必要となった場合は、データ抽出・仕様提示等をする
内容を含めることが重要！(競争原理)**

新たなシステム連携の必要性

原則オンライン・デジタル化による
電子申請・民間連携の推進

被災支援やGIS連携
オープンデータ対応 等

外部連携の標準化が急務
地プラ等の新たな活用

これらの連携標準化には

項目統一に加え
データ整合性チェック等の
システム機能強化が必須
(ぴったりサービス等)

そして

連携文字の統一・標準化
戸籍文字の統一に合わせ
連携する住基等システムの文字統一を

国主導による真の標準化実現を！

中間標準レイアウトの現状

移行項目の適合不足
レイアウト仕様の認識不足

新規開発となる場合は、開発作業の増大
移行プログラムの実績不足

データ移行の検証・トラブルの増大リスク
データ移行経費の増大リスク

国の指導により、主要業務の計画的な
データ項目100%適合とパッケージ化の徹底を

**中間標準レイアウトは、将来の競争原理の導入
とシステム標準化のために有効**

**地プラ項目を網羅しているため、
業務を揃え改定作業を一元化し効率化する検討も**

そもそも

項目100%適合業務でも
既存ベンダーの高額なデータ抽出経費の実態あり

システム入替、共同化が困難

国による妥当なデータ移行経費の提示と
徹底したベンダー指導を

国委任事務は国で解決を(戸籍)
制度・通達等の見直しを(固定資産税等)

三条市では、市町村合併前（職員開発）
のデータ抽出作業を全て職員で実施。
データ抽出・既存仕様提示だけなら
全業務で1人月程度の作業

システム調達要件に、契約終了時の
データ抽出・仕様提供等を行う内容
を含めることが重要（競争原理）